

～株式会社アイニー 代表取締役 藤井美佳穂様から 女性の起業や経営についてお伺いしました

不動産関係のビジネスでは比較的珍しい女性経営者としてご活躍中の株式会社アイニー 代表取締役 藤井美佳穂様からご創業の動機や今後の夢などについてお伺いしました。益々のご発展と個人や社会への貢献を大いに期待いたしております。

Q：現在の主な業務や業界の動向などをお教え願えませんか？

A：現在、不動産に関する業務を幅広く扱っていますが不動産仲介業においては海外との取引も多くなってきており今後積極的に取り組んで行きたいと考えております。国内では東京の需要が多い中、我が社は建築リフォームでもなるべくコストのかからない様にきめ細やかな女性目線で対応し信頼関係と末永いお付き合いを目指しております。そしてお客様からの口コミによる取引も増加しておりまして当社が評価を得ているのではないかと考えております。

Q：約7年前に設立されましたがどのような動機で創業されましたか？

A：会社を設立するまでは不動産関係で勤めており、自分の理想を実現することを目指し起業しました。注文住宅が建売住宅に近いお手頃な価格にならないのか、そしてお客様のニーズを理解できて、いつまでも信頼関係が続けられる不動産業をしたいというのが大きな夢でした。私の「やりたいこと」「好きなこと」が仕事につながり、やりがいを感じております。

Q：ベトナムにもオフィスをお持ちですが、どのような業務をなさっていますか？

A：起業と同時にベトナムオフィスも開設しました。元々ベトナムが大好きで知り合いもおりましたので頻りに往復しております。ベトナムでは不動産業はもとよりタオルの加工、コーヒー豆、ベトナムの石材販売など多角的に展開しております。

Q：これからの夢や女性の視点で経営される特色はどのようにお考えでございますか？

A：建物は新築から中古住宅に変換しつつある傾向の中、例えばリフォームの場合にDIYのサポートによる費用の低価格化など女性の感性を生かしたご提案をしていきたいと考えております。

何とんでも「仕事を遂行するには信頼関係が一番」と考えております。それ故我が社では社員には多様な資格を取得してもらいアドバイスやサービスを推進しております。今後もメンテナンスの充実などお客様を大切にしたい広がりのある、継続した関係による事業展開をしていきたいと思っております。

- ・本社所在地：〒564-0082 大阪府吹田市片山町1丁目12-7 片山ビル2F
- ・電話番号：06-6339-7788 ・FAX：06-6339-7733
- ・E-mail:info@ainy-h.com
- ・Web:www.ainy-h.com



藤井美佳穂 代表

インドでビジネスエリート達が起業する理由

2016年の5月より、インド・オフィスの立ち上げと調査のために南インドのバンガロールで活動しています。

実は私が初めてバンガロールに来たのは2001年、16年前のことになります。その頃のインドを知っている私としてはインドの発展のスピードは目を見張るばかりです。

現在、インドでは都心の人口は約2割、農村に5割の人口が住むと言われており、農村に住む5割がこの5年から10年の間に半分以上都市に移動すると言われています。

変化はあちらこちらで急激に起こっており、デリー、ムンバイ、バンガロールをはじめとする大都市では急増する人口に都市整備がついていけず、大気汚染や交通渋滞、水不足や停電といった問題が起こっています。インド政府は全国に100ヶ所以上のスマートシティを建設してこれらの問題に対応するモデルを作る政策を打ち出しており、大企業他、スタートアップ企業もこのスマートシティプロジェクトに参加していますが、都市整備には相当な努力が必要な状況です。

一方で、インドは理系人材を輩出する大学が数多くあり競争も非常に激しいですが、高学歴の人材の多くはアメリカやイギリス、ドイツ等に留学して、海外で働いた経験を持っています。従来はインドから海外へ移住していた高学歴者達がインドの発展をチャンスと捉え、帰国して起業する、もしくは海外で起業したインド人がインド市場を対象にビジネスを始めるということが起こっています。英語を日常的に使うビジネスエリート達は世界中から情報収集し、外資系のコンサル会社や投資会社に働いている人はアメリカ並みの高給（年収1000万円以上）で働いた経験があり、インドの一般社員の年収が30～100万円程度であるのに比べて大きなギャップがあります。このような人達は、起業に対する抵抗感はなく自分で立ち上げたスタートアップ企業を数年でM&Aして大きなキャピタルゲインを得ることを目指しており、増加するスタートアップ企業を牽引しています。

私はスタートアップ企業の調査にあたって現地での独自のビジネスモデルを持ったスタートアップ企業にインタビューをしています。その中で2社が海外に本拠点を持ち、次のステップでインド市場に展開しようとしている起業家達でした。1社は、HireGradというイギリスで立ち上げた新卒採用プラットフォームを提供する会社で、インド人とイギリス人の共同創業者が起業したスタートアップ企業です。もう1社は、ZingoHubというクラウドファンディングを提供する会社で、インド人とシンガポール人の共同創業者が立ち上げました。どちらもインド市場に注目しており、今後インドでの展開を拡大させていこうとしています。

※インタビュー記事は、Future Venture JAPANに掲載されますのでご参照ください。⇒ <http://fvjpn.com>

このようにインド市場の成長に世界中から注目が集まる理由は、2040年にはアメリカを抜いて中国に次ぐ世界第二位の購買力を持つ国になると言われており（PwC調査による）、現在の混沌とした問題を解決した後に大きな市場があることが明らかであるからです。インドの若者たちはこの変化を肌で感じながら毎日興奮してスタートアップ企業を運営しており、この変化の渦の中のことを私自身大変刺激的と感じています。

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 インド・オフィス 阪口 史保

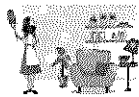
「日中の懸け橋」という想いで出版

1月14日に新潮社様より「中国人観光客の財布を開く80の方法」という書籍を出版致しました。私は講師業をしていて普段から「話す」ということで伝えることをしていますが、書面に残しておくことも大切だと思い、執筆を致しました。中国人観光客の「爆買い」は終わりつつあります。実際、2016年の一人当たりの消費額は前年比-18.4%と減少しました。しかし、来日客数は逆に27.6%の伸び率となっています。これは、彼らが日本に求める内容が変化してきていることを物語っています。

「爆買い」全盛期には放っておいてもなんでも売れました。しかし、これからは態勢を整え彼らのニーズを満たすものを提供していかなければ、お金を落とすくれません。それどころか嫌な思いをしたり飽きられてしまうと、もう来なくなるかもしれません。訪日客の嗜好、習性・ニーズを知ったうえで、団体旅行から個人旅行へシフトしてきている形態に合わせた対応策を講じていくことが必要です。インバウンド事業は本当の意味でスタート地点に立ったばかりです。つまり、やり方次第ではこれからがチャンスなのです。

取材した内容を基に10年間の上海生活と15年にわたり中国人と関わってきた経験を事例として、分かりやすく繁盛戦略を中国ではめめたいとされる「8」にちなんで、80項目に取りまとめました。インバウンド事業関係の方には取り入れて頂きたい内容が満載です。また、インバウンド事業をされていない方でも、今では街に出ると中国人観光客と接することが日常茶飯事です。自由自在に行動をする個人旅行客が増えたとますます触れ合う機会が増えてきます。そんな時に、日本人から見ると不思議に思える行動や困った行動も理由が分かれば、心の負担が軽減します。そして、友好的に係わることができると、楽しいと感じられるのではないのでしょうか。その一助になればという思いで、彼らの行動の理由や対処法なども掲載しております。中国人の全てを受け入れる必要はありません。しかし、この書籍が先ず彼らを知り接し方を見直すきっかけにして頂ければ幸いです。

すみれナレッジ 岡部佳子



「株式会社ベイルインテリア 金城貞美の インテリア収納からはじめる開運術」

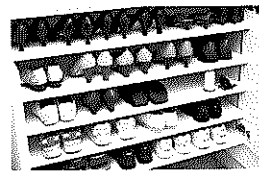
空間に人が入ると住まいになります。その住まいを整えて設えるだけで不思議と気持ちが豊かになり、開運にもつながります。今回はその住まいの「顔」である玄関についてです。誰でも顔を洗うように、おうちの顔も整理収納とインテリアで幸せをよびこみましょう。

【お掃除で家の運気をあげる】

玄関が散らかっていると陰の気が満ちてきて、家全体の運気が下がるといわれています。日々のお掃除で家の運気をあげましょう。玄関のたたきに靴を何足も出しっぱなしにしていると、お家全体が乱雑なイメージになり、お掃除もしにくくなります。帰宅したら、靴底の汚れを落とし一晩たたきに出して乾燥させ、翌朝には下駄箱へ戻しておく習慣をつけておくとよいでしょう。きれいに行き届いた玄関は防犯にもつながります。家の周りが散らかっていると、家の中も散らかっているとされてしまいます。防犯の面からみても、玄関をキレイにしておくことは大切なポイントです！

【玄関は以外と物が多い】

靴・傘・アウトドアグッズ・レジャー用品・子供の外遊びおもちゃ…玄関に収納するものは意外と沢山あります。玄関にあるものを一旦すべて取り出し、「要」「不要」を判断しましょう。本当に必要なものだけを選び取り、取り出しやすく収納しましょう。



(玄関靴箱)

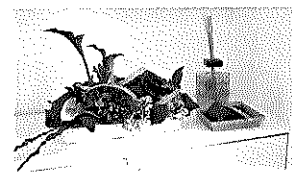
【玄関のインテリア】

玄関の片づけ、お掃除ができたなら花やグリーンを飾ってみましょう。アロマなど香りを楽しんだり、季節の設えでお客様を迎える・・・など、玄関を素敵に演出することでお客様への印象もぐっと良くなり、家族も毎日の生活を楽しむことができます。インテリアのポイントは「明るい・きれい・よい香り」です。

明るい…光をたくさん取り入れることができるように扉やガラス部分はきれいに磨きあげましょう。照明のシェードやカバーをきれいにお掃除するだけでも明るさが変わってきますよ。

きれい…玄関に是非おきたいアイテムは「お花」です。きれいなものを飾っているだけで幸せな気持ちになります。季節の生花がベストですが、手入れが大変・・・と思われる方はアートフラワーも活用してみましょう。

香り…においは慣れてしまうとわからなくなってきてしまいます。好きな香りを取り入れてみてください。幸せは玄関から入ってきます。整理収納とインテリアで家の運気をあげましょう。



(玄関の花)

今月号より 金城貞美 代表のインテリア・収納に関する「情報便り」がはじまります。金城代表は近畿経済産業局主催・LED関西ファイナリストの女性起業家のお一人です。これから季節ごとに発信して頂く予定です。皆様乞うご期待!!

株式会社ベイルインテリア 代表取締役 金城 貞美

私の故郷 モンゴル (バヤン・ウルギー)

私は学校法人エール学園の国際コミュニケーション学科に留学しているアイボラト・アイヌルと申します。

私がモンゴルから異文化の国である日本に来て早や2年が経ちました。今回は私の故郷についてご紹介したいと思います。私の生まれ育はバヤン・ウルギー市です。ウルギー市は中央アジアの海支流がない最大の河川ホブド川や雄大な高い山々に囲まれた美しい自然の町です。

ウルギー市は1940年にホブド県から分離し設立されました。1961年に県都をウルギー市と名付け、1972年にウルギー市の面積を10,092ヘクタールと確定しました。ウルギー市の人口は32,000人ですがそのうちの9割を占めているカザフ族は130年前からモンゴルの西部に移住して来たと言われてます。イスラム教のカザフ族と少数のウイグル、ウズベク、タタル民族がいますが、祭司教(シャマニズム)のトバ族と仏教のウリアンハイ族やドゥロブド族もいます。



ウルギー市はモンゴル国の最も西部に位置するバヤン・ウルギー県の県都です。バヤン・ウルギー市は首都ウランバートルから西へ1,760kmのアルタイ山脈の北麓に位置しています。南は中国・新疆ウイグル自治区、北はロシア・アルタイ共和国と国境を接しています。この近接諸国を通じてアジアやヨーロッパとの交流をしています。バヤン・ウルギー市には13郡、90町、1村があり県と郡の行政機関は4年ごとに総選挙で決める制度になっています。私の故郷では山頂の氷河から流れ出した水が作った非常に澄んだたくさんの美しい湖や川が各地にあります。その数は450本の川、大小70の湖になっています。Indert, Biluuなどの温泉や原水は有名です。Yolt, Bugatiin hatuu, Baga turgen, Ayushiin ehen, Dakilbain 滝など美しい自然の風景地があります。その他にバヤン・ウルギー県に位置するアルタイ山脈、タバン・ボグド山群などの保護地は2011年に世界遺産に登録されました。

多種類の植物や薬用植物が植えていて、他にも300種類の脊椎動物が存在している中で1種類の爬虫類と8種類の魚類が記録されています。世界絶滅危惧種になっているアルタイアルガリ、アイベックス、ユキヒョウ、オオヤマネコ、アジアビーバー、レッドディア、リス等が生存しています。

またカザフ民族の特徴は習慣及び伝統として独自の歴史的並びに文化的な多様性を持つ民族と言われ、現在でも伝統文化や生活様式を守りながら暮らしている事は世界中で注目を集めています。昔からカザフ民族は狩猟のために鷹や鷲を飼育しています。またチョウゲンボウ(ハヤブサの一種)やファルコン(ハヤブサ)と言った猛禽類も飼育、キツネや狼やアイベックス(ヤギの一種)等を狩猟してきた習慣があります。現在、鷹を使って狩猟する人は400人位がいます。

カザフ民族の鷹を使う狩猟は2010年に世界文化遺産に登録されました。また中央アジアで広く祝われる「ナウルーズ」という旧正月を私の故郷でも祝います。このナウルーズと言われる旧正月(3月22日)は太陽暦の一種(イラン暦)であり、中央アジアで用いられています。この日は色々なことを楽しみます。例えば馬を用いた競技クズコアル、狼の皮を剥ぎ取って作った袋を馬で奪い合うゲーム、カザフ相撲大会、石を捨てる競技テンゲイルなどをします。

最後に気候についてですが、海から遠く離れた高山脈に囲まれた地にあるバヤン・ウルギー県は乾燥した涼しい気候でありながら、冬は長くても雪が少ないため厳しい寒さがなくて、夏は短くても過ごしやすい地域です。しかし年間を通して気候が変わりやすいため昼と夜の気温差は5~10℃になります。

また平均気温は冬はマイナス20-25℃、夏は15-20℃です。私の案内は以上ですが、皆様興味をお持ちになりましたらぜひモンゴルへお越しください。まだまだ紹介したいことがいっぱいありますし、遊べる場所や見どころもたくさんありますので是非一度遊びに来てください!

写真: 万年雪に覆われたアルタイタバンボグド山頂(海拔4374m) モンゴルからの留学生 アイボラト・アイヌル

~VEC関西より~

・寒かった冬も終わり、桜も散って緑が輝いています。これから一番いい季節です。私は毎朝、近くの疎水を歩いています。速足で少しでも大股歩きを心掛け、大手を振って歩きます。春眠もいいですが、緑の中を歩きましょう。とっても気持ちいいですよ! 健康と幸運が舞い込むこと請け負います。(本田)

・VECでスタッフとして働いておりました、最近感じることは交流会の参加者が年々増えている事です。(嬉しい悲鳴です!) 初めて交流会に参加される方にも皆様暖かく受け入れて下さる・・・スタッフとして皆様に感謝の気持ちで一杯になります。本当に皆様有難うございます!(藤本)

・先月、ご近所の方から庭に生えている桜の木の枝を何本か頂きました。大きめの花瓶に挿しておけばいいよ・・・と言われ家の花瓶にさして玄関へ置いておくと少し時間はかかりましたが見事に全て満開になりました。

玄関の扉を開けるとそこには満開の桜・・・家の中での桜もなかなかのものです。(濱本)

・5月号は風薫る季節に相応しくすべて女性からご寄稿頂きましたので「女性活躍推進法」がてんこもりでも見える化となって来ました。そして5名の方々はそれぞれの分野で大活躍されています! 就業者に占める女性の割合は40%強らしいのですが女性管理比率を11%から目標である30%の達成を期待します。(澤村)

<交流会の予定>

平成29年6月16日(金) 近畿経済産業局 創業・経営支援課長 大西 逸朗 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部 〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階 TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293